

自らの仕事に対する誇りが不祥事を防ぐ

教職員による不祥事に対する世間からの批判は、他の職業と比較しても非常に強いものです。それは、子供たちの教育に携わる私達が、その使命に相応しい行動を期待されていることの裏返しでもあります。



自分達はこんなに頑張っているのに、一部の人達の不適切な行為で、教職員全体が疑われるのは悔しいな。

世間から白い目で見られると、働いている私達の誇りも傷つき、教職員を指摘している人たちへの影響も心配だね。



でも、私は自分の仕事を誇らしいと思っているよ。きっとこの誇りが、最後の一线で不祥事を思い留まらせてくれると思う！

大変な毎日だけど、自分達の仕事の意義や学校のあるべき姿を、たまにはみんなで議論するのもいいかもね。



(解説)

不祥事が起こる背景には、様々な要因が考えられます。例えば、体罰であれば、適切な指導に関する経験や知識が不足していたのかもしれませんが、または、思いどおりにならない相手に怒りを覚えたのかもしれませんが、人間関係で悩んでいてストレスがたまっていたのかもしれませんが。

これらの要因を踏まえ、各職場で様々な不祥事防止対策を進めるのは大切なことです。しかし、最後の一线で自分の不適切な行為を止める、また、勇気を出して他の職員の不適切な行為を止める、その場面で一番大切なのは、自分の仕事に対する使命感や誇りではないでしょうか。

もっとも、目の前の課題に全力で取り組む日々の中では、そのような思いを見失うことや、気持ちが薄れてしまうこともあると思います。

時には、教職員を志していた時の思い、初めて着任した時の気持ち、これまでに体験してきたことをあらためて振り返ることで、教職員としての使命や誇りを思い出すのも大切なことです。

誇りを胸に

考えてみよう

- あなたの考える、教職員の仕事の使命は何ですか
- 自分の仕事のどのようなところに、誇りを感じますか
- なぜ、教職員になりたいと思ったのですか

民間企業における不祥事

民間企業においては、自動車メーカーにおける検査不正事件や、素材メーカーにおけるデータ偽装事件など、特に組織的な不正が長年問題となっています。不正が発覚する度にコンプライアンスの徹底が叫ばれますが、同じ企業で再び同様の不正が発覚するという状況です。

平成 28 年 4 月に発覚した三菱自動車工業における燃費不正問題は、同社が製作した自動車の型式指定を国土交通省に申請する際、法令で定めた試験方法と異なる方法で燃費値を算出し、不正に申請していました。

未だに後を絶たない不祥事に悩む私たちにとって、この問題の特別調査委員会が出した調査報告書が不祥事防止対策の示唆に富む内容ですので紹介します。

三菱自動車工業（MMC） 燃費不正問題に関する特別調査委員会

「燃費不正問題に関する調査報告書」平成 28 年 8 月

第 8 章 再発防止策（一部抜粋）

- 開発本部をはじめ、従業員の中には、これまでに講じられてきた数々の再発防止策を「こなす」ことに時間を奪われ、本来の業務に時間を割けなくなってしまっている現状にストレスを感じている者も多くいる。
- このことを考えれば、MMC の従業員にとって「手垢の付いた」と受け止められてしまうような再発防止策を提示したところで、従業員の士気を下げてしまい、コンプライアンスを軽視する風潮を変えられないばかりか、かえって助長することにもなりかねない。
- 本調査を通じ、当委員会は、MMC においては、なぜ MMC はモノ作りの会社なのか、なぜモノ作りの会社の中でも自動車メーカーなのか、なぜ自分たちはその MMC に入り一緒に働いているのかといった基本的なことが忘れ去られているのではないか、自動車メーカーとしての確固たる理念がいつの間にかなくなり、同じ会社で一緒になって働いている者たちがバラバラの気持ちではないか、MMC という会社を集う者たちが一丸となり、もちろん関係するサプライヤーをはじめとする他の会社の助けも借りながら、一つの目的に向かって進むという意識が欠けているのではないか、これらこそが、本件問題の根本的で本質的な原因ではないかという結論にたどり着いた。

◆ 教職員の使命と誇りに関するキャッチフレーズ「埼玉県教職員MOTTO（モットー）」の策定

未来を担う子供たちの教育に携わる私達の仕事は、大変尊いものです。そして、このような自分の仕事に対して感じる「誇り」は、私達により良い仕事への意欲と教職員としての使命感を持ち続けるモチベーションを与えてくれます。

埼玉県教育委員会では、このような教職員の仕事に関する使命や誇りを意識し続けることができるようなキャッチフレーズを、全ての教職員から募集の上、令和3年2月に、以下のとおり策定しました。

**未来を創る、こどもたち。
未来を育てる、わたしたち。
～未来への責任～**

私たち教職員は、子供たちの成長に関わり、その人生に大きな影響を与えます。

これからの未来を創る子供たちが、自分の可能性を存分に発揮し、社会で活躍ができるよう、その成長を支え後押しすることが、教職員の崇高な使命です。

一方で、子供たちが成長する姿こそが、教職員のやりがいや喜びとなっています。

このような教職員の使命、あるべき姿、やりがいや喜びを表現しました

このキャッチフレーズの募集については、多くの教職員の方々から応募がありました。

惜しくも採用はされませんでした。素晴らしいキャッチフレーズが沢山集まりましたので、ここでその一部を紹介します。

【応募のあったキャッチフレーズ案】

- 創りたい、未来がある
- 明るい社会に 輝く子供たち 教育にしかできない未来への投資
- 私たちが育てているのは“未来”だ
- 子供たちの成長が「誇り」となる！！
- 今日を埼玉の子のために、埼玉の子の今日のために
- 挑戦する子どもたちを 全力で支え続ける それが私の仕事
- 輝く笑顔がある、揺るがぬ思いがある
- 全ての子供たちに、夢と希望を！
- 私たちの熱意 次の世代へ
- 目の前の子供たちの笑顔が、未来の日本の姿です

◆ 教育の仕事に携わることへの思い

令和2年8月、キャッチフレーズ「埼玉県教職員MOTTO」を募集した際に、教職員の皆さんが仕事を通じて得た感動や喜び、また大切にしてきた誇りなど、未来を担う子供たちの教育に携わることへの思いも併せて募集しました。その一部を紹介します。

「できた。」「分かった。」という時の笑顔。

授業が楽しい!という笑顔。友達と勉強したり遊んだりしている時の笑顔。そのような笑顔を見た時に私も嬉しくなる。

運動が苦手だった児童が、学校の学習を通して、からだを動かす楽しみを知り、未来が輝いた瞬間がありました。運動会で走るリレーの選手を見て、私もリレーの選手になりたいと夢や憧れを口にしました。私たちは

明日やその先の未来に希望を持たせることのできる
大きな責任を担っているのだと実感した瞬間でした。

教員一年目として、色々なことを経験しながら
まだまだ可能性に溢れる子どもたちと
一緒に成長していきたい。

ひとりひとり個性の違う子供たちが、それぞれ成長していく姿が見られる素敵な仕事です。時にはこちらが予想もしない方向に翔け出す子供もいて、毎日が新鮮です。

できないことができるようになった時、
勇気を持って一歩踏み出そうとしている時。
子供たちのそんな瞬間を目にするたびに、喜びを感じます。

あるピアニストの方が「私は多くの日を練習に費やすことができるけれど、先生は毎日が本番ですね。」とおっしゃっていた。その言葉のとおり、毎日、
子供たちの前に立つ時は本番だ
という気持ちで臨んでいる。

1日1日の積み重ねが 子供たちの未来をつくる

卒業した教え子が保護者となって再度出会い、言った言葉です。「先生の前だと、生徒になっちゃう」という言葉とともに、いまだに時々お悩み相談に来ます。それが嬉しく感じられます。

突然の休校から数ヶ月、久しぶりに登校してきた子供たちの姿を私は忘れられません。友人との再会を噛みしめながら、目を輝かせて授業を受ける子供たち。「学校って、楽しい!」という声が教室に飛び交い、心から学校という場所を楽しむ姿がそこにはありました。その光景を目の当たりにし、「学校にしかできないことがある」と確信しました。

教え子が大人になって、私との出会いを大切に、
そして糧にしてくれていることが、嬉しくて、
教員としての活力になりました。

一枚の年賀状が届いた。そこにはパン屋の店先で子供を抱いた笑顔の夫婦の写真が印刷されていた。コメントには「先生の一言があるから、今があるのです」。高3の夏、彼にかけた一言「君は粘り強くて器用だから調理師に向いていると思うよ」。そして彼は進学し、製パン科で腕を磨いた。今では隣県でパン屋を開業している。おしゃれな人気店だ。

私たちの一言で、子どもたちの明日が変わる。

20年ぶりの教え子からの手紙。それは結婚式の招待状。当時2年間担任をし、おとなしくニコニコ私を見つめていた彼女の瞳をよく覚えています。結婚式当日『消極的で目立たなかった私をいつも見ていてくれた』と。御両親からも、当時二十代であった私からの励ましの言葉を丁寧に語られました。私自身が忘れていた言葉の数々。当時の彼女の将来の夢を叶え、パティシエのパートナーとパン屋をオープンした教え子の彼女。心から嬉しく思いました。

一人一人と大切に向き合うこと。

教師としての遣り甲斐を嬉しく感じる出来事でした。

また、こうした感動や喜びを多くの教職員と共有し、「埼玉県教職員MOTTO」をより身近に感じていただくため、『「未来を育てる、わたしたち。」エピソード』や「教職員インタビュー」を県ホームページに掲載しています。これらを研修などで活用することにより、教職員としての使命や誇りを思い出すことも大切です。